



第 21 回 杏林大学 学校保健実践研究会 プログラム・講演集

ーこれからの養護教諭に必要なことー



2024 年 2 月 24 日（土）

杏林大学 井の頭キャンパス

杏林大学保健学部教職課程運営委員会

杏里会（保健学部同窓会）

第 21 回 杏林大学 学校保健実践研究会

主催：杏林大学保健学部教職課程運営委員会

協力：杏里会（保健学部同窓会）

開催日時 2024 年 2 月 24 日（土）13:00～16:30
会場 Zoom（オンライン）および杏林大学井の頭キャンパス A 棟 101・102

【プログラム】

総合進行 山内 亮子 先生

開会挨拶 13:00～13:10 亀崎 路子 先生 保健学部教職課程運営委員長

基調講演 13:10～14:10 進行 朝野 聡 先生

I. 山田 浩平 先生（愛知教育大学 教育学部 准教授）

養護教諭が行う学校保健活動の推進

<休憩> 10 分間

実践報告 14:20～15:20 進行 山内 亮子 先生

I. 武井 佳那 先生（東京都 多摩市立 大松台小学校 養護教諭）

養護教諭としての研究活動の実践

ー東京都養護教諭研究会の事例を通してー

II. 山本 悠樹 先生（私立 逗子開成中学・高等学校 養護教諭）

男性養護教諭としての学校保健活動の実践

情報交換 15:20～15:50 進行 大澤 亜貴子 先生

閉会挨拶 15:50～16:00 照屋 浩司 先生

自由トーク 16:00～16:30 進行 山内 亮子 先生

基 調 講 演 要 旨

養護教諭が行う学校保健活動の推進

基調講演者 ご略歴

やまだ こうへい
山田 浩平 先生

愛知教育大学 教育学部 教育科学系 養護教育講座 准教授

2006 年 3 月に順天堂大学大学院博士課程健康教育学専攻を修了し、同年 4 月より順天堂大学助教に着任（この間、杏林大学保健学部非常勤講師を兼任）。

2010 年 4 月より愛知教育大学養護教育講座に転任し、養護教諭の養成に関わり、2012 年 4 月より愛知教育大学大学院准教授。

所属学会では、日本学校保健学会、日本保健科教育学会、日本養護教諭教育学会等の評議員をつとめ、国立教育政策研究所主催の学習指導要領作成に関わる専門委員、日本オリンピック委員会の医・科学スタッフとなり活躍中。愛知県では教育委員会の健康推進学校の審査員として、各学校における健康推進について指導、助言に務める。

著書として、「保健総合大百科中・高校編」少年写真新聞社、「新しい健康教育」保健同人社、「学校保健」大学教育出版、「保健の授業をおもしろくするワンカット教材」大日本図書など 学校保健、健康教育に関連した著書多数。

養護教諭が行う学校保健活動の推進

山田 浩平

YAMADA Kouhei

愛知教育大学 教育学部 准教授

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大・長期化によって、社会は大きく変化することとなり、人々の生きがい(生活の質)が世界的に再熱し注視されるようになってきています。この世界的潮流は、SDGsの実現を目指す Society 5.0 (Society 5.0 for SDGs)の人間中心社会においても重視されており、生涯健康の視点からその基盤としての学校への期待が大きくなっています。健康教育の目標は、ヘルスプロモーションの理念を受け、対象者個人へのアプローチと環境(立法・行政含む)へのアプローチによって、健康状態の向上に留まらず、自分なりの生きがいを見つけて生活していくという生活の質の向上を目指しています。

今回は「養護教諭が行う学校保健活動の推進」をテーマに設定し、その充実に向けて、1 健康教育を中核とした学校経営の進め方、2 環境要因としてナッジ理論に基づいた健康教育の推進、の各視点から考察していきます。

2 健康教育を中核とした学校経営の進め方

(1) 学校における健康教育の位置づけと意義

健康教育は学校(学校保健)以外にも、地域(地域保健)や職域(産業保健)でも実践されており、学校における健康教育は学校保健、学校安全、食育を含めた総称として捉えられています。さらにその目標については、「時代を超えて変わらない健康課題や日々に生起する健康課題に対して、一人一人がよりよく解決していく能力や資質を身に付け、生涯を通して健康で安全な生活を送ることができるようにすること(保健体育審議会答申、1997)」とされています。また取り扱う内容例としては、1 健康の意義、2 心身の構造・機能及び発育・発達、3 健康を高める生活や健康を守る制度、4 環境と健康のかかわり、5 傷害や疾病の発生要因と安全確保、6 心の健康問題の生じ方や対処の方法、などが挙げられています。

これとは別に、教育基本法第 1 条(教育の目的)においては、「心身ともに健康な国民の育成」が示されている中で、各学校において健康教育を中核とした学校経営を推進することは、我が国の学校教育における根本的な使命と捉えることができます。なお、米国での健康教育の先駆者である LW Green は、健康教育を「健康によい行動が自発的にとれるように、計画的にあらゆる学習機会を組み合わせること(1991)」と定義しています。学校における健康教育は、全ての教職員の参画によって取り組むと共に、対象者が自発的に健康・安全行動を取れるように計画しなければならない課題です。

(2)カリキュラム・マネジメントに基づいた健康教育の推進(学校保健計画の活用)

カリキュラム・マネジメントとは、「学校教育に 関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと」です。その具体的な指針としては、子供や学校、地域の実態を適切に把握したうえで、1 教科等横断的な視点で教育課程 を組み立てていくこと(カリキュラムのデザイン)、2 教育課程の実践状況を評価してその改善を図っていくこと(PDCA サイクルの確立)、3 実践に必要な人的又は物的な体制を確保すること(内外のリソースの活用)が示されています。

学校保健活動を推進していくために、そのカリキュラムを具現化しているのが学校保健(安全)計画であり、各学校では学校保健計画や安全計画をもとに学校保健活動を展開していくことになります。日本の学校教育においては、各教科の教育目標と教育内容は学習指導要領に規定され、これを基準あるいは標準にして検定教科書が作成されています。一方で、教科以外の特別活動等で実施する健康教育の計画は、各学校独自に設定しなくてはなりません。健康教育の計画づくり(カリキュラムづくり)にあたっては、まず目標を設定し、次いで目標を達成するための適切な教育内容を編成する必要があります。その編成にあたっては、教育内容の範囲(Scope)と順次性(Sequence)からなるフレームワークを設定しなければなりませんが、Scope を設定することが先決です。ここではこの Scope を選定するためのいくつかの方法を紹介します。

① ニーズ把握による教育内容の決定

教育内容を決定する方法の一つに、健康教育を実施する対象者の実態を調べ、課題が見られた項目についてフォーカスすることがある。これは、対象者のニーズに視点をあてているだけに過ぎず、他の角度からもニーズ把握が必要です。対象者のニーズ以外には、現在の健康科学の領域でどのような内容が学際的なトピックなのか、学校医等の専門家などから最新の知見を聞いて教育内容を決定する科学のニーズ、国(文部科学省や地方自治体など)の方針から教育内容を決定していく社会のニーズがあります。これら、対象者・科学・社会のニーズが重複している項目は極めて重要な学習内容となり、教育的ニーズと呼ばれています。

ともあれ、教育内容を決定する際には、自分がどの立場からニーズ把握をしているのかを明確にし、より重点課題と思われる教育的ニーズに近い内容を選定していく必要があります。

② 問題解決のプロセスに沿った計画再生の仕方

問題解決とは生じている問題(原因)を的確に発見することにより、適切な対策を立てて実現するための計画づくりです。「問題の把握→原因の特定→対策(計画)立案→実行→振り返り」といった一連のプロセスを経て形成されます。

1.問題把握

今、起こっている問題、つまり“あるべき姿(期待する姿)からズレている状態”を把握するために、まず現状を認識します。現状認識から何が問題であるかを把握するためには、あるべき姿(期待する姿)を明確に持つておくことも重要です。

2.原因特定

問題は表面的で抽象的なことが多く、表面だけを捉えて対策を考えても具体的な行動には反映されません。仮に反映されたとしても一時的な応急処置にしかならず、根本的な解決にはなりません。起こっている問題の本質を見つけ、その本質に対する対策を立ててこそ問題の解決につながります。

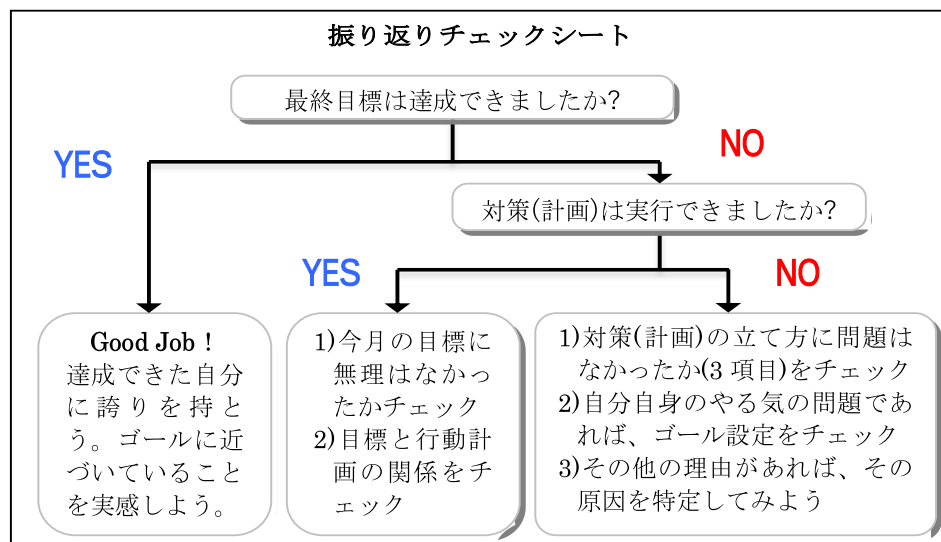
3.対策(目標)立案

原因特定により出された問題の本質に対して、適切な対策(計画)を立てます。原因が複数出てきた場合は、優先順位をつけて絞り込みます。対策(計画)はできるだけ具体的にすることが必要であり、具体的な対策(計画)を作成するには、以下の3項目が入っているかチェックします。

- ① 自分でコントロールできること
- ② 測定可能であること(数値化)
- ③ 日付、期限が入っていること

4.振り返り

問題解決を効果的に行うために、行動を実行した後に情報収集することを「振り返り」と言います。計画通りに進んでいるのか、効果が出ているのか、問題解決に対して現在どこにいるのかなどを確認し、調整や修正を行うことで更なる前進を促します。



3 環境要因としてナッジ理論に基づいた健康教育の推進

人の意思決定のメカニズムを理解する上で代表的な理論の一つとして二重過程理論があります。二重過程理論の基本的な考え方は、「システム 1」と呼ばれる素早くかつ無意識的に働くプロセスと、「システム 2」と呼ばれる遅くかつ意識的で統制されて働くプロセスの2つのシステムから成っています。阿部(2018)は、これらのシステムをよりわかりやすく説明するために、システム 1 を「速いところ」、システム 2 を「遅いところ」と称しています。速いところは直感的な反応や情動的な反応で、本能的な欲求の発現を支えるシステムです。自分の力でコントロールするというよりも直感に依存し、脳の機能としては大脳辺縁系とよばれる領域が関与していま

す。一方で遅いところは合理的判断や論理的思考といった、意志の力によるところのはたらきを支えるシステムです。学習によって獲得された論理や特定のルールに基づいており、脳の機能としては前頭前野との関連が深いです。

これらのところの中でも、「速いところ」に働きかける理論として、近年健康支援の分野で注目されているナッジ(Nudge)があります。ナッジとは行動経済学から生まれた行動促進の手法であり、「選択を禁ずることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択的アーキテクチャのあらゆる要素(Thaler、2022)」と定義されています。わかりやすく表現すれば、行動変容を促す「仕掛け」を指しており、健康環境づくりとしてナッジの活用が示されています。

紙幅の関係でナッジの事例を詳しく説明することはできませんが、その一つに X 地区で飲食店との共同で行ったキャンペーンが紹介されています。「野菜増量メニュー購入でもれなく 50 円キャッシュバック」というキャンペーンを実施したところ、普段外食にお金をかけない人の野菜増量メニューの注文率が伸びたという結果があります。この実験では対象者にアプローチすることではなく、50 円というインセンティブ(環境づくりとしての仕掛け)で野菜摂取に向けた行動変容が見られました。ナッジを支えるのは、斬新的なアイデアです。例えば、学校保健委員会で各教員からスクールヘルスナッジを促すためのアイデアを出し合っても良いでしょう。ナッジをきっかけに多くの教員の学校保健活動への参加を期待します。

<参考文献>

- 1)阿部修士:より良い意思決定の実現に向けて,第27回日本健康教育学会学術大会講演集,24-25,2018.
- 2)Thaler RH 他:遠藤真美訳.実践行動経済学完全版.東京:日経 BP;28-37,2022.

実践報告要旨

I. 養護教諭としての研究活動の実践 ー東京都養護教諭研究会の事例を通してー

武井 佳那 先生

(東京都 多摩市立 大松台小学校 養護教諭)

II. 男性養護教諭としての学校保健活動の実践

山本 悠樹 先生

(私立 逗子開成中学・高等学校 養護教諭)

養護教諭としての研究活動の実践 —東京都養護教諭研究会の事例を通して—

武井 佳那

TAKEI Kana

東京都 多摩市立 大松台小学校 養護教諭

1. はじめに

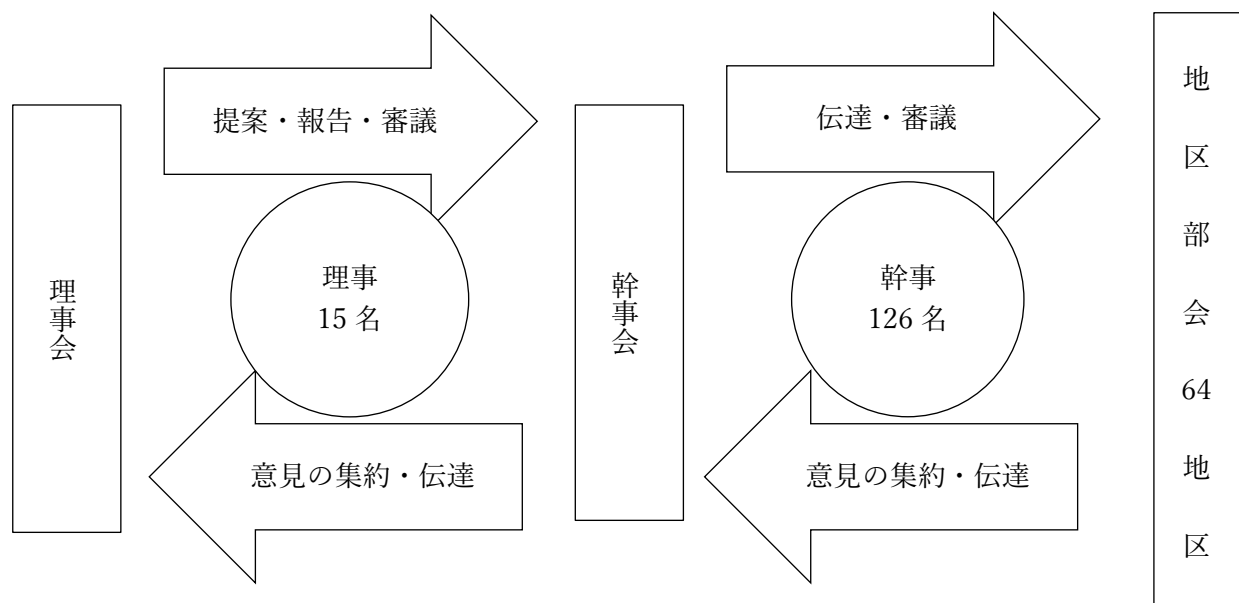
私は平成 26 年度に大学卒業後、東京都八王子市の小学校に配属となり、令和 2 年 4 月に現任校となる多摩市立大松台小学校に勤務しています。令和 3 年 4 月より東京都養護教諭研究会の理事を拝命して、研究部会の監事として調査や研修会の企画や運営を担当することになりました。この 3 年間理事として携わってきた活動内容について紹介させていただきます。

2. 東京都養護教諭研究会について

東京都養護教諭研究会は、養護教諭の資質の向上と学校保健の研究ならびに普及発展をはかることを目的として、東京都内の国公立小中学校、特別支援学校の養護教諭約 2130 名が所属する団体で、毎月理事会、幹事会を開き、事業計画に基づき運営しています。

運営に関わる理事は 15 名選出され、小学校 9 名、中学校 5 名、特別支援学校 1 名の養護教諭からなります。理事は係ごとに担当する仕事に分かれており、年に 3 回開催する研修会の運営業務や学校保健に関する調査研究に関わる業務、会誌や会報の作成・発行業務等があります。

幹事会には各地区からの幹事 126 名が参加し、幹事も係に分かれて運営に携わり、連絡事項を地区に持ち帰り伝達する又は地区からの意見を幹事会でフィードバックする等の役割があります(図 1)。



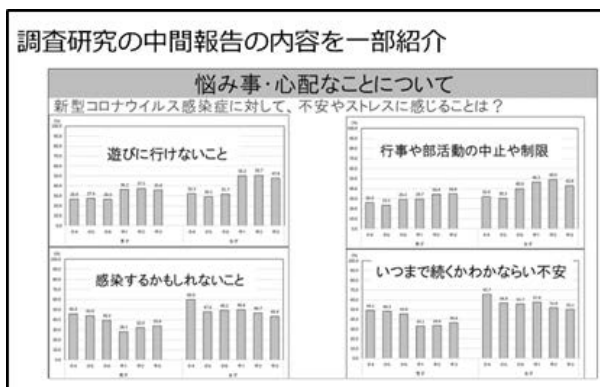
2. 調査研究の概要と活動内容

令和3・4・5年度に「新型コロナウイルス感染症による児童生徒の心身への影響と健康教育」をテーマに3年間の調査研究を行いました。1年目に仮説を設定し、児童生徒対象のアンケートを作成し、合計4200名の児童生徒(小学校26校、中学校27校)に調査を実施しました。

2年目には、養護教諭対象のアンケートを作成し、1738名に対して調査を実施するとともに、1年目に実施した児童生徒対象アンケートの結果の分析と読み取りを行いました。

3年目は、養護教諭対象のアンケートの結果の読み取りを行い、児童生徒対象アンケートの結果と合わせて研究のまとめを行いました。毎年夏休みには各地域の代表として調査研究の係となった養護教諭を対象にした学習会を開催し、理事や係幹事を中心に研究活動の運営企画して、助言者による講演や、調査研究に関する協議・検討を行い、研究内容を深めました。

児童生徒対象アンケートでは、生活行動に関する質問や新型コロナウイルス感染症に関連する質問をすることで、児童生徒の実態が把握できました。また、養護教諭対象アンケートでは、コロナ禍で養護教諭が取り組んだ健康教育に関して調査したことで、今後に生かせる結果を還元することができました(詳細は東京都養護教諭研究会会誌に掲載しております)。



3. 東京都養護教諭研究会での調査研究の利点

東京都内の小中学校に大規模な調査が可能であり、過去の調査とも比較し経年的に調査ができます。また、養護教諭の意見や現場の実践を調査でき、大学の先生や他部署と提携して専門的な協力が得られます。

4. 研究会での経験を通して

2000名以上の養護教諭から組織される研究会の理事として、企画や運営に関わることは、その責任と労力も非常に大きく、大変貴重な経験となりました。しかしながら、多くの養護教諭と知り合い、様々な地区の状況を知り交流の幅が広がりました。研修会の運営や調査研究に携わりながら、普段経験することのない医師会等との意見交換会や全国の研修会に参加し、学びを深めることができ、大変有意義な体験をすることができました。

男性養護教諭としての学校保健活動の実践

山 本 悠 樹

YAMAMOTO Yuki

私立 逗子開成中学・高等学校

養護教諭

1. はじめに

男性養護教諭と聞いて、どのようなイメージをされるでしょうか？みなさんも様々なイメージがでてくるように、私自身もどのようなアイデンティティを持つべきか、学生時代から模索をし続けていました。新卒で就職してから、いつのまにか中堅と呼ばれる年齢に近づく中で、自分の振り返りを含めて、皆さんに共有したいと思います。

2. 勤務校の概要の紹介

逗子開成中学校・高等学校は、神奈川県逗子市にある、中高一貫教育の私立男子中学校・高等学校です。神奈川県下では最も歴史の古い私立男子校で、完全中高一貫校としています。生徒数は中高合わせて1600人以上、教職員は100名程度の大所帯です。生徒はもちろん全員男子ですが、教職員は女性の方も多く、周辺私立男子校と比較しても、女性の職員率は高いと聞いています。また、創立当時より逗子の海を利用した教育を行っています。現在では「海洋教育」を逗子開成の教育の大きな柱の1つとして重視し、単にクラブ活動などで一部の生徒が行うのではなく、全ての生徒が「ヨット帆走」「遠泳」などを体験するカリキュラムとなっています。

3. 保健室と相談室

校舎が大きいこともあり、第一保健室と第二保健室の二つに分かれています。私は第二保健室を担当しており、主に中学一年生の生徒の対応をしています。遠方から来校するなど通学の負担、進学校として求められる学習の質と量の負担、そして中学生へのライフステージの変化を一身に背負う中学一年生のニーズは、多岐にわたります。

また、相談室の運営も行っています。本校の相談室は、不登校生徒の復帰支援の場として活用されています。不登校生徒は本校も増加傾向にあります。カウンセリングはカウンセラーが保護者と実施し、その後管理職や学年主任、担任とも会議を行い、チームで支える仕組みができています。

4. 近年の実践

- ① 健康診断の間診票やスポーツ振興センターの災害報告など、可能な限りデジタル化し業務のスリム化を行っています。勉強に部活に課外活動と忙しい生徒たちからは、時間短縮ができ概ね好評です。また、1600人以上の情報データを捌くのもICTの利用を積極的に行わないと追いつきません。現在は捌くのに精いっぱいですが、このデータをもとにほけんだより作成など保健教育にも生かしていきたいです。
- ② 救急管理体制や保健室来室時の情報共有など、様々なシステムの整理と見える化を進めています。本校の教員の皆様はかなり協力的で、運用中のフィードバックをいただけることも多くあり助かっています。
- ③ 前任の先生から引継ぎを行い、保健室の備品整備や整理整頓を実施しました。まずは救急対応の動線を意識しながら、少しずつ保健教育や相談の場としても活用できるよう計画中です。

5. 気楽に相談できるふわっとした位置へ

「いろんな仕事をして、いろんなことを知っているから相談しやすい」と同僚から言われるようになりました。新卒から今まで同じ学校に勤務をする中で、長期にわたり生徒を見ることができ、学校の運営に携われることが、自らの成長につながっていると感じています。定点観測できる教員として、これからも生徒の健康と成長を見守り、学校全体と個のニーズをいち早くつかみながら活躍する「やわらかい」養護教諭を目指したいと思います。



ご紹介

教職課程運営委員会発行の本が出版されました

学校保健実践研究会も昨年で 20 回の開催を重ねてきました。そこでこれまで 20 年間の学校保健実践研究会の活動に参加されてきた先生方にお声掛けしながら、多様な専門領域や現場の養護教諭の先生方の思いをこのハンドブックにまとめてみました。Amazon Kindle の電子書籍でも読むことができます。ぜひご覧ください。

養護教諭のための ヘルシースクールハンドブック — これからの養護教諭に必要なこと —



杏林大学保健学部教職課程運営委員会 発行
杏林大学保健学部看護学科看護専攻 亀崎路子 編著



Amazon Kindle 電子書籍版

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0CVDC8569/>



第 21 回杏林大学学校保健実践研究会 幹事

大澤 亜貴子
山内 亮子
朝野 聡



Nursing and School Nursing Major, Department of Nursing,
Health and Welfare, Faculty of Health Sciences, Kyorin University